

## 令和3年度第2回東浦町地域公共交通会議 会議録

会議名	令和3年度第2回東浦町地域公共交通会議
開催日時	令和3年7月15日（木）午前11時から午後1時まで
開催場所	緒川コミュニティセンター ホール
出席者・欠席者	別添「令和3年度第2回東浦町地域公共交通会議委員名簿」のとおり
議題	(1) 交通計画改定に係る各種住民意識調査について【協議】 (2) 「う・ら・ら」20周年イベントについて【協議】 (3) 障害者手帳アプリによる障害者手帳情報の確認導入について【協議】 (4) 令和3年度の乗車人数について【報告】 (5) バスロケーションシステムの更新について【報告】
その他	(1) Docor システムの説明 (2) 活発で良い議論ができる会議のために。
傍聴者の数	5人

### 審 議 内 容

◆防災交通課長

定刻となったため、会議を開催する。

◇会長

今回は議題が5つある。皆様の意見、ご協力をお願いします。

◆防災交通課長

始めに、本日の出席委員は、委員名簿のとおり、30名中27名で、定足数の過半数以上に達しているため、東浦町地域公共交通会議設置要綱第6条第2項により、本会議が成立したこと及び同条第4項により、会議は公開とし、本日の傍聴者は5名であることを報告する。また、本日の会議の内容については、町のホームページで後日公開することを併せて報告する。

次に、委員の皆さまの任期については、昨年度に委嘱を行ったため、令和2年4月1日から令和4年3月31日までとなっている。また、人事異動等により交代のあった委員の方は、前任者の残任期間が任期となる。

◇会長

議題1 「う・ら・ら」ダイヤ改正について、事務局から説明を求める。

<b>議題1 交通計画改定について…資料1、別紙1、2-1、2-2、3、4、5、6、7</b>
---

◆事務局A

資料1の「交通計画改定に係る各種住民意識調査」について説明する。現行の「東浦町地域公共交通網形成計画」の計画期間が令和3年度末までとなっているため、現計画の評価及び新計画の目標設定に必要な情報を聴取する住民意識調査を実施する必要がある。

まず、住民意識調査として行うアンケート調査及びワークショップの内容を説明する前

に、現計画の実施状況及び課題について説明する。「(1) 現計画の実施状況」の表1に記載のあるとおり、現計画で設定した事業は全て実施している。詳細については別紙1を見ていただきたい。なお、これは令和2年12月11日に実施した「令和2年度第4回東浦町地域公共交通会議」で既に決議を取っている。

しかし、これらの事業を全て行ってもあまり効果が得られなかったものがある。それが「(2) 現計画で残った課題」に記載した3項目である。なお、これらは新計画で実施すべき事業でもある。

1つ目が「路線の見直し、新設などを進め、町内外の移動をより便利にする」である。これについては、移り変わるニーズに対応していく必要がある公共交通では永遠の課題である。2つ目が「利用促進・啓発」である。令和元年10月より本町の路線図に、他市町のコミュニティバスや民間の路線バス等の情報を追記した公共交通マップを作成したほか、保育園及び幼稚園でのバスの乗り方教室を開催する等利用促進・啓発を実施してきたが、今後は大人向けのバスの乗り方教室を開催する等公共交通に接する機会づくりを新たに設けていく必要がある。3つ目が「移動+交流の機会づくり」である。本町の最上位計画である総合計画にも「移動しやすく交流できるまちを目指します」と記載があるため、公共交通を介して地域住民同士の交流が生まれる仕組みを設けていく必要がある。例えば、町全域のスタンプラリーを開催し、移動の足としてバスを利用していただく方法や、老人会やサロン等でバスを使って行けるおでかけスポットへのプランを提案する等が考えられる。

これらの課題を踏まえ、現計画の評価及び新計画の目標設定に必要な情報を聴取するために、アンケート調査及びワークショップを開催する。

アンケート調査の詳細については、資料1の2ページ「2 東浦町の公共交通とあなたの外出についてのアンケート」に記載している。アンケート調査は、交通計画改定のため、現計画の評価及び新計画の目標設定に必要な情報の聴取を第一目的とし、さらに公共交通に対する意識・行動変更を促すことを狙っている。

内容については「(1) 内容」に記載のあるとおり、5つの要素でできている。1つ目が「外出の頻度等に関する質問」、2つ目が「公共交通の利用頻度に関する質問」、3つ目が「現行施策に関する質問」、4つ目が「回答者の属性を区分するための質問」、5つ目が「「う・ら・ら」を利用するための意識・行動変容を促す質問」である。

配布時期及び対象については「(2) 配布時期・対象」に記載のあるとおり、町内在住の方900名を対象に7月下旬から郵送にて配布する。なお、配布の内訳は、令和3年6月末日の東浦町の住民基本台帳システムをもとに各年代の人口比を揃え、森岡、緒川、緒川新田、石浜、生路、藤江の6地区で等分している。各年代の内訳については表4のとおりである。

アンケート調査票とともに同封する資料は「(3) 同封する資料」に記載のあるとおりである。まず、アンケート調査票を入れる封筒は別紙3のデザインである。依頼文は別紙4のデザインで、町長名にて住民の皆さまにアンケートの趣旨等を説明し、回答を依頼する。なお、配布する資料では町長名のサインが入る。返信用封筒は別紙5のデザインである。

以下は「う・ら・ら」を利用するための意識・行動変容を促す質問の関連資料として同封する。まず、バスの乗り方や時刻表の読み方を紹介するガイドブックである「楽しい

「う・ら・ら」のはじめかた」は別紙6のとおりである。表紙にバスの写真、2から3ページにかけて導入文、4から7ページにかけておでかけスポットの紹介文等、8から10ページにかけて時刻表の読み方や「う・ら・ら」の乗り方、12ページに名古屋大学の加藤先生や運行事業者のコメント、裏表紙にお試し乗車券の使い方及び感染予防の紹介文を掲載している。その他に、路線図・時刻表、東浦安心おでかけマップを同封する。

スケジュールは「(4) 住民アンケートのスケジュール」のとおりである。本日の会議でアンケートの内容等を諮り、細部を調整したうえで7月下旬に発送する。アンケートの回答期限とお試し乗車券の利用期限はどちらも8月末までとし、9月は回答分析に取り組み、10月に開催する会議で報告する予定である。

#### ◆事務局B

名古屋大学大学院研究員の大野が説明をする。アンケート調査票の各質問の内容や意図等について説明する。資料「東浦町の公共交通とあなたの外出についてのアンケート説明資料」、別紙2-1及び別紙2-2の調査票と照らし合わせながら見ていただきたい。

先ほど事務局が資料1でご説明したとおり、アンケートを取ることの大きな目的は2つあり、1つ目は「現計画の評価及び新計画の目標設定に必要な情報を聴取すること」、2つ目は「公共交通に対する意識・行動変更を促すこと」である。

まず、1ページ目の2枚目のスライドを見ていただきたい。今回のアンケート調査では、東浦町の総合計画に記載のあるとおり「移動しやすく交流できるまちを目指します」という目標設定を念頭に質問を設けている。

アンケート調査票の質問5に設けた「意識・行動変容を促す質問」は、一般的なアンケート調査では見かけないものである。この質問を設けた理由を説明する前に、現状の東浦町の公共交通についてお話ししたい。

現状、東浦町の公共交通軸である「う・ら・ら」は、環状線化や長寿線のイオンモール東浦への乗入れ、時刻の変更等大がかりな見直しが一段落したところではないかと考えている。もちろん、地区レベルの個別具体課題がいくつかあることは存じているが、町全体レベルで見た際には一段落しているのではないかと考えている。これらのことから、新計画の5年間は、新しくなった「う・ら・ら」をより使ってもらう段階であると考えている。

これらを踏まえ、この質問5を設けた理由を説明させていただくと、利用促進で使われる手法を実際に行うことで、町民の方々の意識・行動変容の変化状況を把握し、新計画の具体施策の検討や評価材料という形に反映するためである。

各質問の内容及び意図の説明の前に、アンケート調査票の封入部数について説明する。調査票は本人用を1部、同居家族用を2部の計3部を封入し、郵送する。3部入れる理由としては、日本の平均世帯人員が2.39人であることから設定した。後述のお試し乗車券も同様の理由から3人分用意している。

では、ここからアンケート調査票の各質問の内容や意図等について説明する。質問1の「①あなたは、1週間に何日程度、外出しますか？」は、現計画の成果目標指標の評価をするために設けた質問である。なお、現計画では65歳以上の外出頻度という形で設定しているため、分析の段階で、後ほど説明する質問4で得た年齢の回答から条件付きで抽出する。

次に、質問1の「②外出の目的別で、あなたは1週間に何日程度、それぞれ外出をしますか？」は、①の外出頻度の質を把握するために設けた質問である。どのような外出をし

ているかを把握することで、新計画の具体施策の検討材料としたい。

次に、質問1の「③あなたの普段の外出で、他人と会話や交流ができる“おでかけ先”は何カ所ありますか？」は、新計画の評価指標として、「う・ら・ら」の利用機会づくりの施策評価をするために用いたいと考えている。質問1の③を設けた理由としては、様々なところで他人と会話や交流ができるおでかけ先の大切さが報告されているためである。

まずは、3ページの上のスライドに掲載しているグラフを見ていただきたい。友人・知人との交流頻度が高い方ほど、外出頻度が高いことが分かる。ここから、他人と会話や交流が少ないと、外周頻度は減り、外出頻度が減れば、公共交通利用者が減ることも考えられる。また、交流頻度や外出頻度が少ない高齢者は、健康リスクがあることが示唆されている。これは医療・福祉分野の負担増等社会的なデメリットとも言える。

これらのことから、他人と会話や交流ができるおでかけ先と「う・ら・ら」をつなげて、より利用してもらう様にするには、今後の施策として重要であると考え、質問1の③を設けた。具体的な施策案としては、先ほど事務局からも説明があったがスタンプラリーや、3ページ下のスライドに記載のある会津若松市で実施しているランチ会を開催するほか、イベントや教室をバスの発着時刻に合わせる等の方法がある。

質問2については、公共交通の利用頻度から回答者の属性を把握するもので、「バスを使っていないが鉄道を使っている人はどのように考えているのか」等といった他の質問の分析するために設けた。質問3の①と②については、現計画の成果目標指標の満足度の評価をするために設けた。質問3の③は、自由記述で、本調査で補足できなかった点はここで把握したいと考えている。

質問4については、年齢やお住いの地区等から回答者の属性を把握するもので、他の質問を分析するために設けた。質問5の①は、「う・ら・ら」の認知度を測るために設けた。認知度というと、「どこに路線が走っているか」、「運行時刻を知っているか」等の質問で把握することもあるが、今回に関しては、今後、大がかりなアンケートでなくても収集しやすい簡易な指標とした。そのため、交通系のイベント開催時にボードにシールを貼って集計することも容易にできるので経年評価がしやすい。

先ほど質問5では利用促進で使われる手法を用いると説明したが、その手法について説明する。質問5で用いる手法は、アンケート形式で行うことができる利用促進の手法「行動プラン法」である。本手法を用いることで、「う・ら・ら」を利用したおでかけプランを立ててもらい「う・ら・ら」って意外と使えるかも」といった意識の変化を促すだけでなく、先ほど説明したお試し乗車券も同封し、自発的な利用、つまり行動変更も促すことを狙っている。

次に、質問5の各質問について説明する。先ほど説明した質問5の①は本来の行動プラン法にはないが、質問の流れとして適切なのでここに設けた。質問5の②から④は行動プラン法の質問になっている。最初に質問5の②で自宅近くのバス停名を書き、③でおおよその利用目的を考え、④でより具体的な場所を書く流れを取っている。

質問5の⑤から⑧は、実際におでかけするための具体的なプランを作成していただく。質問5の⑨では行動プラン法の効果指標として設けたもので、「う・ら・ら」を利用しておでかけしてみたい」という意識変化の有無を把握する。質問5の⑩についても行動プラン法の効果指標として設けている。なお、「すぐに実行できそう」と考えている人ほど、意識変化の度合いが大きく、実際の利用にもつながりやすいと考えられている。また、最

後にはお試し乗車券の利用を促す一文も入れている。

#### ◆事務局A

次に、資料1の「3 東浦町の公共交通とあなたの外出についてのワークショップ」について説明する。ワークショップは、町民の方の意見聴取の場として実施することが第一目的だが、さらに、参加した方に「学び」や「気づき」が与えられるような生涯学習の場となるよう配慮する。

内容について「(1) テーマ・内容」に記載のあるとおり、1グループ4名程度、最大定員を36名とする全3回のワークショップである。なお、第1回と第2回の間にはフィールドワークを依頼する。

開催日時等については「(2) 開催日時・場所・対象」の表7に記載のあるとおり、9月17日(金)、10月8日(金)、10月15日(金)にイオンモール東浦 2階 イオンホールで実施する。また、ワークショップは2部制で森岡・緒川・緒川新田の北側の地区は午後1時25分から、石浜・生路・藤江の南側の地区は午前10時45分から90分程度実施する。なお、開催時刻はバスの発着時刻に合わせて設定している。

実施体制については、全体進行や説明等を名古屋大学大学院 研究員 大野悠貴氏が務める。このほか、全体進行を補助するサブ進行役が1から2名、各テーブルでの議論を補助するスタッフとして名古屋大学学生、及び防災交通課職員が4から6名参加する。

参加者の募集については「(3) 参加者の募集」に記載のあるとおり、広報ひがしうら8月号で公募するほか、各地区連絡所長等地域住民の活動に明るい方に声をかける。なお、アンケート調査及びワークショップのスケジュールについては、別紙7に記載のあるとおり令和3年3月の計画改定に向けて順次実施していく。

#### ◆事務局B

名古屋大学大学院研究員の大野が説明をする。ワークショップの目的や内容等について説明する。資料「東浦町の公共交通とあなたの外出についてのワークショップ説明資料」の1ページ目の下のスライドを見ていただきたい。先ほど事務局が資料1でご説明したとおり、ワークショップを行う大きな目的は2つあり、1つ目は「町民の方の意見聴取の場とすること」、2つ目は「参加した方に「学び」や「気づき」が与えられるような生涯学習の場とすること」である。

このような目的を設定した背景を説明する。1つ目の目的である「町民の方の意見聴取の場とすること」を設定した背景には、日常のおでかけ先の把握や「う・ら・ら」に対する町民の方の考えを把握したいといったものがある。また、2つ目の目的である「参加した方に「学び」や「気づき」が与えられるような生涯学習の場とすること」を設定した背景には、先ほどアンケート調査で説明したとおり「う・ら・ら」はより使っていただく段階に入っており、ただ意見を聞いて終わりにせず、参加者一人一人が自分なりに、「う・ら・ら」をより使うために何ができるか」を見つけてもらいたいといった思いがある。

ワークショップのコンセプトについて説明する。2ページ目の上のスライドを見ていただきたい。ここに記載のあるようにコンセプトは、「う・ら・ら」を日々の暮らしに“ちょい足し”してもらおうことである。ちょい足しとは、自分が利用する機会を作る、周りの人が利用する機会を作る、利用しやすい環境を作る等が考えられる。この3回のワークショップを通して、参加者一人一人に自分らしい「う・ら・ら」の“ちょい足し”レシピを見つけていただきたい。

1回目のワークショップについて説明する。2ページ目の下のスライドを見ていただきたい。第1回のテーマは「本当に大事なおでかけは何？」である。ワークショップは、3から4人のグループで話し合う形式をとり、町内全域が把握できる大きな地図を用意し、「今おでかけしているところ」にピンを置いてもらう。これにより、参加者のおでかけ先を地図上に可視化し、日常のおでかけ先を把握したいと考えている。なお、ワークショップは全3回とも3から4人で話し合う形式をとる。

このピンを置いた後、本当に大事なおでかけが何かを考えていくため、2つの観点から参加者に問いかける。これについては、3ページ目の上のスライドを見ていただきたい。まず、1つ目は「通販やオンライン診療等社会的な利便性が向上し、直接的に外出する必要がなくなっているが“あえて”、“わざわざ”おでかけしたいところはどこですか？」であり、2つ目が「車が運転できなくなり、家族にお願いしてでも、でかけたいところはどこですか？」である。

2つの問いかけをした後、参加者には地図に置いたピンから「あえて・わざわざおでかけしたいところ」、「車が運転できなくなっても、でかけたいところ」以外のピンを外し、残ったピンについて、そこにでかける「目的」や、なぜ残したのかについて、グループで発表してもらう。ワークショップの中で、「どうしておでかけするのか?」、「どんなおでかけがしたいのか?」を自分にとってのおでかけの大切さを、参加者一人一人に再認識していただきたいと考えている。なお、ピンが残らなかった場合は、「家にいるだけでは得られないこと」を考えていただき、おでかけの大切さを再認識していただく。

全3回のワークショップではあるが、参加者には1回目と2回目の間に個人フィールドワークを依頼する。3ページ目の上のスライドを見ていただきたい。個人フィールドワークでは、「う・ら・ら」に実際に乗車していただく宿題を出したいと考えており、1回目の最後に「う・ら・ら」のお試し乗車券と、記入用紙を配布する。記入用紙には、「う・ら・ら」に実際に乗って気づいた「良いところ」、「危険なところ」、「気になるところ」の3分類で記入していただく。また、スマートフォン等で撮影した写真がある場合は、東浦町役場に送付していただき、2回目には印刷したものを事務局で用意する。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況にもよるが、自由参加型の乗車体験会も実施したいと考えている。

2回目のワークショップについて説明する。4ページ目の下のスライドを見ていただきたい。2回目のテーマは「「う・ら・ら」の良いところ、危険なところ、気になるところ」である。2回目では、個人フィールドワークで気づいた点をグループで話し合い、まとめたものを会場全体で共有する。

3から4人のグループで話し合う形式をとり、町内全域が把握できる大きな地図を用意し、「今おでかけしているところ」にピンを置いてもらう。これによって、参加者のおでかけ先を地図上に可視化し、日常のおでかけ先を把握したいと考えている。これにより、「う・ら・ら」の良い点・改善点を把握したいと考えている。

2回目の後半では、3回目のつなぎになるよう「他地域の“ちょい足し”レシピ」を紹介するとともに、宿題として「私の“ちょい足し”レシピ」を次回までに考えてきていただく。

3回目のワークショップについて説明する。5ページ目の下のスライドを見ていただき

たい。3回目のテーマは「私の暮らしに「う・ら・ら」を“ちょい足し”してみよう」である。3回目では、自分や周囲の人の暮らしに「う・ら・ら」を“ちょい足し”するためのレシピを考え、グループで発表した後、会場全体で共有する。他の人のレシピを見てもらい、良いと思ったレシピに投票する等のイベント要素を加えることや、ワークショップの成果としてレシピを公開したいと考えている。

今回のワークショップが「う・ら・ら」のみを対象とした理由について説明する。6ページ目の上のスライドを見ていただきたい。これは、参加者の多くが公共交通非利用者であることが想定されるため、いきなりすべての公共交通を対象とせず、まずは東浦町の公共交通軸である「う・ら・ら」から考えていただくのが適切であると考えたためである。なお、参加者に「う・ら・ら」のヘビーユーザーがいた場合、その方はすべての公共交通を対象を広げて、2回目、3回目に参加していただく等、柔軟に対応する。

最後に、ワークショップの中で取り上げられないその他の意見収集については、意見記入用紙を1回目に配布し、2回目・3回目に回収する。これによって、本ワークショップで取り上げられなかった点は補足したい。

#### ◆事務局A

以上で議題1「交通計画改定に係る各種住民意識調査について」の説明を終了する。

#### ◇会長

説明を受け、委員の意見を聴取する。

#### ◆委員A

交通計画の改定をするために、意見聴取をするのが本来の目的であると思う。アンケートについては、収集した回答が計画に反映されていくのが分かりやすかったが、後半のワークショップを実施することで、どのような情報を把握し、交通計画改定に反映されるのかが理解できなかったもので、改めて教えていただきたい。

#### ◆事務局B

ワークショップの内容から交通計画改定に反映する箇所としては、1回目のワークショップで日常のおでかけ先を地域ごとに把握することで、例えば、「う・ら・ら」の路線に反映することも可能であると考えている。また、2回目のワークショップで「う・ら・ら」に対する町民の意識、良いところや改善点を把握することで、計画に記載する具体施策を検討する材料として活用できると考えている。

#### ◆委員A

アンケートの対象者が900名でワークショップの対象者が70名程度であるのに、ワークショップの意見が重視されないかが疑問である。ワークショップは、対象者の話も含めて意見聴取というより、参加者の意識変化の場として設けられているように感じる。交通計画改定に向けての住民意識調査であれば、アンケートの質問項目を増やし、より多くの情報を聞き取ったほうがよいのではないか。また、ワークショップの中身が「う・ら・ら」しかやらないという点も疑問に思う。

#### ◇副会長

委員の方が言われているように、ワークショップについては調整が必要である。アンケートの集計なしに、ワークショップで聴取した情報のみで計画改定をすることは不可能ではあるが、そもそもワークショップは資料1に記載しているように計画改定のためだけに実施するものではない。今回実施するワークショップは、新計画の具体施策で記載するよ

うな町民の意識・行動変容を促す催事の練習という側面も持っている。来年度以降、このようなワークショップを展開していくためには必要な取り組みだと考えている。

また、今回のワークショップでは“ちょい足し”がキーワードになっている。計画改定をする際に多くの市町でお話しいしていることではあるが、今、非常に便利な公共交通であつたら、いくらでも利用できるが、決して便利とは言えないので、利用方法には限りがある。もちろん、便利にするために無限にダイヤを増やせるものでもない。今ある公共交通をどのように生活にちょい足しするか、また、どこにダイヤをちょい足しすると便利になるのか、そこを考えることが大事であり、そこを明らかにすることは計画改定に資する情報になりえる。このようなことが聞き取れるように、ワークショップの内容を組み替える必要がある。また、多くの方に参加していただく以上、どのように役立つのか、参加者の生活にどのようなメリットがあるのかを説明する必要があるが、今回のワークショップの説明ではそれが欠けていた。委員の皆様には、修正した内容を改めてお送りさせていただく。

#### ◆委員B

コロナ禍の今、ワークショップを開催する必要はあるか。来年度以降に延長しても良いのではないか。

#### ◇副会長

昨年度にそのように対処し、今年度になった。今年度も絶対に実施するとは考えておらず、状況によっては中止もあり得る。今、ワークショップを実施する理由としては、計画改定に必要な情報を聴取する必要があることはもちろんのこと、計画改定に際して、皆様に公共交通に乗っていただけるような気持ちを持っていただくためにする取組みは、一度実施しないと、計画には書けないと考えているためである。

#### ◆委員C

アンケートの対象者数は900名で、そこに2部ずつ同居家族用に入れると説明があつたが、最初から2,700名を対象にアンケートを実施した方がより多くの意見を聞き取れるのではないか。また、アンケートの中で「お近くのバス停をお教えてください」という問いがあるが、どの程度を近くと考えているのか。

また、ワークショップは1グループ4名とあるが、その中に連絡所長が入ると、地域の方は3名になる。そのような状況で地域の意見を聴取することはできるのか。最後に、開催日については平日の午後とあるが、対象者は誰を想定しているのか。子どもや働いている方は参加できないのではないか。

#### ◇副会長

アンケートの対象者数は900名で事足りており、900名取るのであれば、折角なのでご家族の方にも回答していただくという趣旨である。なお、アンケート調査票は本人様用とご家族様用で分けているため、無作為抽出として信頼度の高い本人のみの集計も可能である。

ワークショップの日程については、広く多くの方に来ていただきたいのであれば、委員の方の言われたとおりである。ただし、お呼びしたい対象者は、計画に何を反映させるか、何を指して開催するかの内容に、左右されるものではあるので、内容を修正したうえ、検討し、再度書面にてお送りさせていただく。

#### ◆事務局B



ワークショップの人数に関しては、資料1の5ページに「1グループは4名程度、最大定員36名とする」と記載のあるとおり、1地区あたり2から3グループ作成できると考えているため、1地区あたり10名程度は参加していただける想定をしいえる。なお、コロナ対策から会場の定員等を考慮し、最大定員を36名とした。

また、平日開催としている理由は、今回のワークショップのテーマから、主な対象者を高齢者としているためである。ご指摘のあった様なバス通学で利用している児童や保護者の方を対象とするのであれば、地区ごとに住民懇談会のような場を設ける必要があると思われる。

#### ◆委員D

交通計画を改定する上で、どの範囲を公共交通と捉えているのか。意見聴取の内容が「う・ら・ら」に偏りがあるように思える。

#### ◇副会長

「う・ら・ら」だけでなく、公共交通全域のことを聞かなくてはならないと考えている。ワークショップの内容が主に「う・ら・ら」のみになっているため、そのように思われたのだろう。アンケートについては、民間バスや鉄道、タクシーについても質問項目を設けている。ワークショップは少し特殊で、すべての地域を運行し、同一のテーマで話し合える公共交通は「う・ら・ら」しかないと考えている。たとえば、知多バスの路線をテーマにすると、森岡や東ヶ丘といった地区では切実なものとなるだろうが、他の地域の方はそもそも運行していないので分からない。

また、本日の議論をしていく中で、地区ごとの要望を改めて伺う必要性を感じた。「う・ら・ら」は老若男女が乗車するため、高齢者の話だけを聞けばいいという公共交通ではない。秋以降等遅い時期になるかと思われるが、各地区で住民懇談会を開催したい。

#### ◆委員D

町民の方がどのような不安を抱えていて、そこに対処するためにどのような公共交通を設けていくべきか等の考えはあるのか。例えば、ひざを故障している方の声等を把握していただくと良いのではないか。

#### ◇副会長

それはかなり難しいことではないか。一人の声が全体の声なのかを考える必要がある。そもそも、このアンケートは町が何を実施すべきかを把握するアンケートであり、最初から個別具体的なものを聞くものではない。また、施策として反映できないことが分かっているのであれば、個別具体的なものを聞くべきではない。このアンケートも計画に記載できるものかを吟味し、質問内容を設けている。

また、ワークショップを実施する意味には、一人の意見ではなく、周りの方と話し合いながら生まれた“みんなの意見”を聴取するという意味がある。そういったことを踏まえれば、ワークショップのタイトルは「東浦町の公共交通と“あなた”の外出についてのワークショップ」ではなく、「東浦町の公共交通と“みんな”の外出についてのワークショップ」とした方が良いだろう。ワークショップは今後の施策に反映されることなので、自分のおでかけを考えるだけでなく、みんなのおでかけを考える機会にする必要がある。

#### ◇会長

その他なければ、採決を取らせていただく。

#### ◇会長

内容が多岐に渡るため、節を区切って採決を取らせていただく。まず、アンケート調査をこの形式で実施することについて採決を取らせていただく。

◆全委員

異議なし。

◇会長

最後に、ワークショップについては様々な意見をいただいたため、事務局預かりとし、調整した内容を書面にてお送りするとともに、調整後の内容に関わらず、各地区での住民懇談会を開催する必要性にも言及があったため、様々な手法を組み合わせ、計画改定に向けた住民意識調査を実施することについて採決を取らせていただく。

◆全委員

異議なし。

◇会長

その他なければ、次の議題に移らせていただく。

議題2 「う・ら・ら」20周年イベントについて…資料2

◆事務局A

資料2の「「う・ら・ら」20周年イベント」について説明する。平成13年10月から運行を開始した東浦町運行バス「う・ら・ら」は、今年10月で20周年を迎える。今まで利用していただいた方々に感謝の気持ちを伝えるとともに、次の30周年も迎えらるバスとするために以下の事業を実施する。なお、感染対策のために不特定多数を集めるイベント等は開催できないため、小規模のものになる。

1つ目が「1 緒川駅東口・イオンモール東浦のバス待合所付近の美化活動」である。緒川駅東口及びイオンモール東浦のバス停には図1及び図2のような風よけが設けられているが、経年で汚れてしまった。そのため、風よけ部分の清掃や周辺のゴミ拾い等の美化活動を行う。実施時期は熱中症の恐れがない秋ごろとし、感染対策として10人程度の小規模で開催する予定である。なお、参加者の募集は広報紙や町ホームページで実施する。

2つ目が「2 東浦町の公共交通とあなたの外出についてのワークショップ」である。議題1で説明したワークショップは、20周年事業にも位置付けて実施する。

今後の展開としては、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みながら、広報紙での利用促進記事の掲載など行えるものから事業を展開し、本会議において報告を行う。

◇会長

説明を受け、委員の意見を聴取する。

◇副会長

美化活動も良いが、「町が日頃から管理していくものではないのか」と言われてしまうと立つ瀬がない。バス停付近の美化活動を20周年事業にするのではなく、花バスのように飾り付けたり、車内を「う・ら・ら」の20周年の歴史等が分かるように装飾したりするのであれば良いのではないのか。東浦町は既にハロウィンやクリスマスの時期に車内を装飾しているので、問題なく実施できるのではないのか。ワークショップを20周年事業にすることも、やや違和感がある。委員の皆様からのご提案をいただきたい。

#### ◆委員 E

内容的には日常的にやるべきことを、20周年事業としてやるのは違和感がある。ちなみに10周年事業の際にはどのようなことをやったのか。また、周年事業とは関係ないが、児童・生徒を対象とした夏季限定の事業はないか。

#### ◆事務局 A

10周年を記念してイベント等は開催していないが、広報ひがしうらに無料乗車券を印刷し、全戸配布した。小中学生を対象にした夏季限定の事業としては、夏休み期間のみ10円で乗車可能とする「10円バス」を実施予定であったが、昨年、今年と感染状況に考慮し、中止した。副会長等からご意見頂いたように、清掃活動は日常的に実施するべきものである。20周年事業としてイベント色の強いものを検討していきたいので、皆様からご提案いただけるとありがたい。

#### ◇副会長

10周年事業は実施していないが、乗車人数が300万人を達成した際などにはイオンモール東浦にてイベントを実施している。

#### ◆委員 F

先ほど周年事業として意見のあった車内を飾りつける案は非常に良い。私が「う・ら・ら」に乗ったきっかけは、子どもが描いた絵が車内に飾り付けされたときだった。親子が「う・ら・ら」に乗るきっかけづくりになるので、候補として検討していただきたい。

#### ◇副会長

感染対策の観点から、大々的なイベントを実施するのは困難であるため、各地区で20周年事業の冠を付けてそれぞれイベントを開催していくのも良いのではないか。

#### ◇会長

現状ではイベント色が弱いため、事務局預かりとし、調整した内容を書面にてお送りすることとしてよろしいか。委員の皆様からもご提案をいただきたい。

#### ◆全委員

異議なし。

#### ◇会長

その他なければ、次の議題に移らせていただく。

### 議題3 障害者手帳アプリによる障害者手帳情報の確認導入について…資料3

#### ◆事務局 A

資料3の「障害者手帳アプリによる障害者手帳情報の確認導入について」について説明する。現在、障害者手帳や療育手帳を確認することでの運賃割引を実施しているが、令和3年9月からマイナポータル連携された障害者手帳アプリ「ミライロID」を用いた代用確認も認める。

県内では「ミライロID」による代用確認を導入済みの主な公共交通機関は表1のとおりであり、今後拡大が予想される。

なお、令和3年7月15日現在、療育手帳の情報はマイナポータル連携されていないため、連携が開始され次第、代用確認を可とする。周知方法は町ホームページ及び町SNSを

利用する。

◇会長

説明を受け、委員の意見を聴取する。

◇会長

その他なければ、採決を取らせていただく。

◆全委員

異議なし。

◇会長

その他なければ、次の議題に移らせていただく。

#### 議題4 令和3年度の利用者数について…資料4

◆事務局A

資料4の「令和3年度の利用者数等について」について説明する。「1 利用者数の推移」の図1は、利用者数の推移を表したグラフであり、水色が令和3年度、橙色が令和2年度、灰色が令和元年度の利用者数を示している。令和3年度の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていた令和2年度と比べると大きく増加しているが、令和元年度の利用者数と比べると4,000人～5,000人程度の減となっている。生活様式等が大きく変化したため、利用者数を令和元年度の水準に戻すことは困難ではあるが、「バス車内の防疫対策の周知」や「混雑時間の情報提供」等コロナ禍における利用促進を引き続き実施していきたい。

資料4の2ページ「2 ワクチン接種会場付近のバス停利用者数の変化」の表2では、ワクチンの集団接種会場付近のバス停の利用者数を「接種実施日」と「未実施日」で区分した結果を示している。実施日と未実施日で最も差が生じたのは「東浦高校線（文化センター経由）」の「文化センター」のバス停であるが、それでも1日当たり2.2人の増であり、大きな変化はなかった。また、運行事業者からは「普段利用しない方が乗車することで起きるトラブルや遅延等も発生しなかった」と報告を受けている。今後は、個別接種が開始したことや、接種者の対象年齢が下がることで接種会場までバスを利用する方は減少していき、接種実施日と未実施日の差はより小さくなっていくと考えられる。

◇会長

説明を受け、委員の意見を聴取する。

◇会長

その他なければ、次の議題に移らせていただく。

#### 議題5 バスロケーションシステムの更新について…資料5

◆事務局A

資料5の「バスロケーションシステムの更新について」について説明する。令和3年8月からシステム更新によって生じる主な変更点を「1 システム変更に伴う主な変更」の表1でまとめている。主な変更点は4点あり、1つ目は、運行状況の確認がより容易になったことである。今までトップページから4つページ進む必要があったが、1つ進んだだ

けで遅延情報を確認できるようになった。2つ目は、バス停のお気に入り登録ができるようになったことである。お気に入り登録することで、利用頻度の高い路線のバス停の発着時刻をトップページに常時表示できる。3つ目は、時刻表・路線図を確認できるようになったことである。4つ目は、システム変更に伴いアドレスが変更したことである。なお、新アドレスの周知としては、広報ひがしうら8月号に掲載するほか、8月中は現行のアドレスで新アドレスの案内文を表示する。

#### ◇会長

説明を受け、委員の意見を聴取する。

#### ◇会長

その他で何かあるか。

### その他 Docor システムの説明…資料「Docor システムの説明」

#### ◆事務局 C

名古屋大学環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター地域戦略研究室の高山が、説明をする。

バスに乗車していただく出入口付近にカメラを設置し、このカメラにより乗車人数・降車人数をリアルタイムで観測する Docor システムを「う・ら・ら」に導入した。Docor システムでは、先ほどお話しした乗車人数・降車人数だけでなく、車両センサーで得られるエンジン回転数・車速も観測・記録できる。

現状の課題としては、待機時間中にエンジンを切っていることが多く、エンジンオフ中に乗車した方をカウントできないことや、ハイエースや代車等の運行時に観測できないことがある。

#### ◇副会長

文部科学省が実施している大学院を対象とした交通系のプログラムに選ばれたため、現場の東浦町、豊永町、新城市、南伊勢町のコミュニティバスの車内にシステムを導入させていただいた。Docor システムでは、0.5 秒おきに速度や車体の向きも分かる。Docor システムを導入した目的は、学生が研究するデータを収集するためである。しかし、これらのデータをもとに学生にやってもらいたいこと等があれば、お声がけいただきたい。

なお、システムの導入期間は2年であり、設置費や通信費は名古屋大学が支払っている。それ以降も設置したい場合は各自治体で買い取る必要がある。

#### ◇会長

説明を受け、委員の意見を聴取する。

#### ◇会長

その他で何かあるか。

### その他 活発で良い議論ができる会議のために。…資料「活発で良い議論ができる会議のために。」

#### ◆委員 D

中部運輸局愛知運輸支局の山内が説明をする。

資料「活発で良い議論ができる会議のために」について説明する。本冊子では、公共交

通会議で話し合うことや、会議の参加者とその役割についてまとめている。Q&A等も設けて、素朴な疑問にも答えているので、一度読んでいただきたい。

◇会長

説明を受け、委員の意見を聴取する。

◇会長

その他で何かあるか。

◆防災交通課長

次回の会議開催予定については未定であるため、決定次第、事前に連絡させていただく。

◇会長

本日の議事日程をすべて終了した旨を告げ、閉会を宣告する。